

ミノルタ千代光会 会報 No.159

令和5年度

高野山物故者慰霊祭

10月5日に執り行われる

17名の方々を合祀



「秋の風と彼岸花」京都郊外の亀岡にある穴太寺周辺の畑は、いたるところ彼岸花で満開です。

畦道には風に吹かれた細く長い彼岸花の列、太い彼岸花の列、直線や曲がりくねった列は赤い花で稲田に沿っているの表情が生まれます。

刈り取りの終わった畑には束ねられた稲藁が幾何学模様のように並んでいます。

爽快な秋風に吹かれながら好アングルを探すのは彼岸花との楽しい撮影時間です。 [撮影：松下 修三]

「高野来て肌を感じるやっど秋」(ま)

今年9月の真夏日数が記録となるほどの夏が続き10月を迎えましたが、標高約850米の高野の街は秋でした。

令和5年秋の物故者慰霊祭は4年ぶりにご遺族の方々のご参列を得て10月5日(木)に高野山に於いて催行することが出来ました。

本年度新たに合祀された方々は17名、これまでにお祀りした物故者は625名となりました。来賓として会社より鈴木透様(関西支社長代理)、労働組合より切久保誠一様(副中央執行委員長)のご参加をいただき、田嶋英雄総代をはじめ当会メンバーを含め36名にて実施されました。

(次のページに続く)

高野山物故者慰霊祭	1-3
事務局からお知らせ	3
理事会便り	3

本年度物故者法要
南院にて
ご遺族と関係者 参列



内海住職よりご法話



大霊園に移動 ミノルタ慰霊塔にて
12時より慰霊祭



今年は総勢
36名が参加

ご遺族・参列者全員 香を手向ける



彦 夫 正 泰 英 司 英 夫 繁 實 史 郎
 浅 濱 幾 田 藤 原 清 水 竹 内 渡 邊 鳥 海

一 純 進 哲 彦 馨 俊 夫 正 博 節 男
 住 清 俊 純 進 哲 彦 馨 俊 夫 正 博 節 男
 和 福 堀 榊 片 清 高 木 七
 住 井 川 原 岡 水 橋 村 五
 和 福 堀 榊 片 清 高 木 七
 住 井 川 原 岡 水 橋 村 五

○会員の皆さん 高野山へお詣りの節は南院へもお立寄り下さい。
 千代光会からのお詣りとお伝えいただければ過去帳厨子も拝観できます。
 ※南院へは、高野山駅よりバスに乗り、浪切不動前で下車
 ※ミノルタ慰霊塔のある霊園へは、奥の院前で下車

高野山金剛峯寺の公式ウェブサイトは
<https://www.koyasan.or.jp/>



「赤き火友を偲び寒さ忘れ」(治)
 「秋風に凜とたたずむ高野禎」(康)
 「秋日和輩(とも)と味わうみろく石」(寛)
 「任職も世代交代灯を継ぐ」(ま)

法要は午前11時からご遺族が参列して物故者の過去帳の在る別格本山南院にて内海照隆住職により法要を行いました。

静寂な本堂は冷えておりストーブが焚かれているほどでしたが、その暖かい灯によって若い情熱が溢れていた頃の友を思い出された方も居られました。正面には会社とミノルタ千代光会からの一対の供花が、その間に高野山の名物である高野槇がすくっと盛られており静寂の中にも将来に向かつて生き抜く勇気を感じさせる雰囲気がかもし出していました。ご住職のお話では、参拝者が昨年末頃から増え始めて今春からはコロナ前の状況に戻ってきたとのこと。法要の前に温かいお茶とみろく石という名の銘菓をいただきました。みろく石とは、高野山奥之院の聖域の祠に納められている石で、触れると弥勒菩薩のご利益があるということである有名です。またご住職は昨年一年間弘法大師の名代として高野山の重要行事の導師を務める大仕事を無事終えたのを区切りに近々住職の座を息子さんに引き継ぐ予定と話されていました。



「香を焚き共に偲ぶ秋の高野」(淑)
 「慰霊祭新加入はゼロが良い」(健)
 「偲ぶ人偲ばれる人秋がゆく」(創)

南院での法要を終えて慰霊祭会場の高野山大霊園へ移動し、多くの会員の参列者も加わって正午よりミノルタ物故者慰霊祭が慰霊塔にて行われました。南院のご住職とお二人の僧の読経の中、川口理事の司会で式が進められ、始めに会社創業50周年として建立された慰霊塔の主旨を記した「先賢の霊(みたま)に捧ぐ」が三原理事により朗々と読み上げられ、続いて参加者が順次香を焚いて物故者を偲びご冥福を祈りました。そして物故者の名板を慰霊塔のご遺族の手で、また物故者と縁のあつた参加者により安置していただき、最後に内海住職よりご挨拶をいただき終了となりました。毎秋に集まって思いを馳せる慰霊祭は同じ形で開催するものの、偲ぶ人偲ばれる人が年々変わって行くことをあらためて実感しました。

記念写真までの暫くの間、慰霊塔を背景に写真を撮るご遺族、久しぶりに会う方と言葉を交わす方、中には冗談で弘法大師空海の如く永遠に生き続けることを想像する方もおられました。慰霊塔の前でご遺族と共に参列者全員での記念写真を撮り、滞りなく慰霊祭の式事は終了しました。

その後慰霊塔傍のレストランへ移動し慰霊祭に参列された方々で会食・歓談を行いました。ミノルタ千代光会会長の挨拶、慰霊祭催行の田嶋総代による献杯、会社代表鈴木氏の会社状況のご紹介、コロナ前からの久しぶりの多人数での対面の歓談を楽しみました。



「水澄むや語らい行けば奥之院」(創)
 「秋時雨 一足毎の 奥之院」(憲)
 「参道に神妙な顔異国人(いこくびと)」(創)

(次のページに続く)

おめでとうございます

⊕=中部地区会員
⊙=関東地区会員
無印=関西地区会員

<古稀>

8月 松下 哲雄⊕ 藤田 昌史⊕
10月 山本 正人
11月 清水 康博

<喜寿>

8月 小山 敦⊕ 野口 和幸⊙ 吉見 直樹⊕
加藤 久雄⊕ 新川 鉄二⊕
9月 今泉 康子⊕ 本藤 正則 田口 義昭
加藤 正英⊕ 鳥居 徳栄⊕
10月 江ノ口裕次 西谷 英雄 花田 可弘⊕
永田 憲蔵⊕ 今村 俊二⊕
11月 木村 和夫 川坂 憲一 松山 創
永田 崇嘉⊕ 村上 伸一

<傘寿>

9月 田嶋 威雄⊕ 木村 宗利
10月 東 俊雄⊕ 竹林 教夫⊕ 下平 優⊕
湯浅 穆夫 大場 勝
11月 秋山 和也⊕

<米寿>

8月 河野 道和 菱井 樟隆 村中 正雄
伊藤 卓⊕
9月 新井 康友
10月 辻 四朗 芳田 宗文
11月 小寺 照雄

<卒寿>

8月 山中 克郎
9月 西河 竹次
10月 丸 基二

対象者：8月2日から11月15日生まれの方

お悔やみ申し上げます

牧山 広幸 2023年2月16日
白井 稔 2023年4月16日
長井 宏爾 2023年7月 9日
大西 友一 2023年8月18日

「秋風に高野の紅葉歩む道聖を偲び魂洗う」

(庸&GPT)

(報告 会長 大場 勝)

食事後の恒例のオプションとして専門のガイドによる奥之院参拝のツアーを行ない、ご遺族はじめ多くの方が参加されました。紅葉には未だ時期が早く、ツアー中に時雨もありましたが、高野杉の大き木が林立した奥之院の霊地で語り合いながらの散策を楽しんでおられました。また外国からの旅行者が80%と言われる高野の地ならではの参詣情景も多く目にしました。最後に写真担当の松本理事のGPTが「高野山の秋」で作った詩を紹介し報告記とします。

理事会だより

9月理事会(WEB会議)

- ◇2023年度物故者慰霊祭開催について
- ◇関西地区議題
 - ・秋の行事について

10月理事会(WEB会議)

- ◇2023年度物故者慰霊祭報告
- ◇2023年度中間収支報告
- ◇関西地区議題
 - ・秋の行事について
 - ・2023年度中間収支報告
 - ・その他

事務局からお知らせ

新入会員のお知らせ
今回は該当の方なし

【会員状況】

10月17日現在

関西地区 [488名]
中部地区 [203名]
関東地区 [58名]
合計 [749名]